

平成 30(2018)年さけます来遊状況(第 2 報:9/30 現在)

4 サケ年齢組成と体サイズ

国立研究開発法人水産研究・教育機構
北海道区水産研究所 さけます生産技術部

- 北海道の 9 月末時点での年齢別来遊数を推定すると、4 年魚（2014 年級）は前年を大きく上回っているが、5 年魚（2013 年級）は 1994 年以降で一番少ない
- 北海道のサケの平均重量は 3.03kg で、前年（3.59kg）に比べ大幅に減少し、1989 年以降で最も小さい

・サケの年齢組成

北海道の河川に回帰したサケの年齢査定の途中経過をもとに、9 月末時点における年齢別来遊数を推定したところ、4 年魚（2014 年級）が全体の 70%と最も多く、次に 5 年魚（2013 年級）が 24%を占め、4 年魚の割合は 1994 年以降で一番高く、逆に 5 年魚の割合が一番低くなっています。また、4 年魚の来遊数は前年同期の 248%と前年を大きく上回っていますが、5 年魚は前年同期の 55%と下回っています。1994 年以降の平均との比較では、4 年魚が 67%、5 年魚は 19%となっており、5 年魚は 1994 年以降で一番少ない状況です（図 1）。

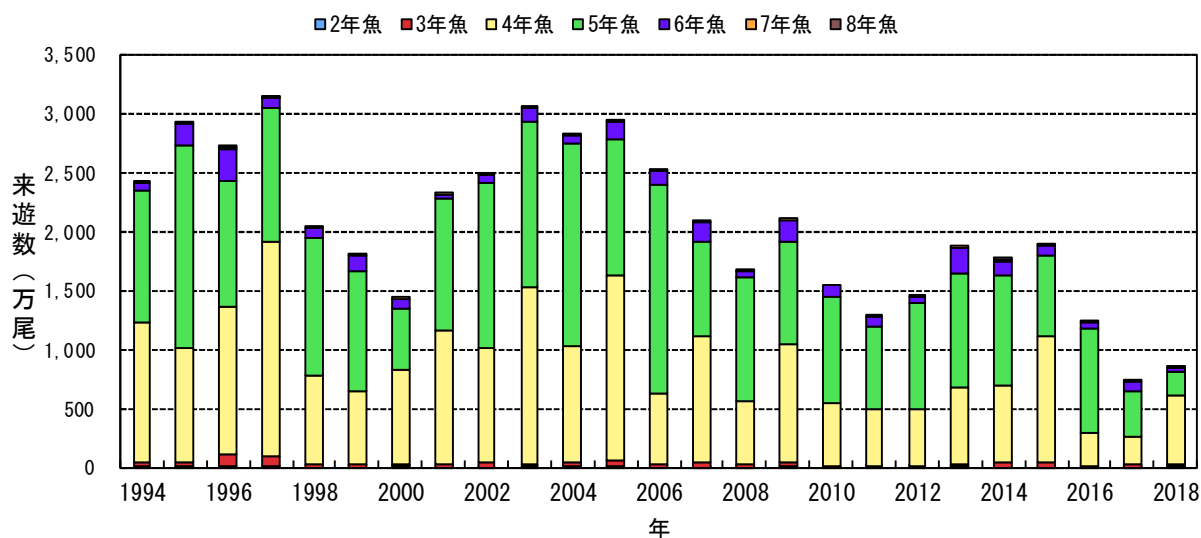


図 1. 9 月末時点のサケ年齢別来遊数（北海道）.

年級群（生まれ年）ごとの来遊数をみると、今年の5年魚である2013年級については5年魚までの来遊数（2～5年魚の来遊数）で比べた場合、1992年級以降で一番少なくなっています。2013年級は昨年4年魚での回帰も少なかったのですが、5年魚での回帰はさらに少ない状況です。また、4年魚である2014年級は4年魚までの来遊数（2～4年魚の来遊数）で比べた場合、1992年級以降の平均の69%の水準で、少ない方から7番目となっています（図2）。

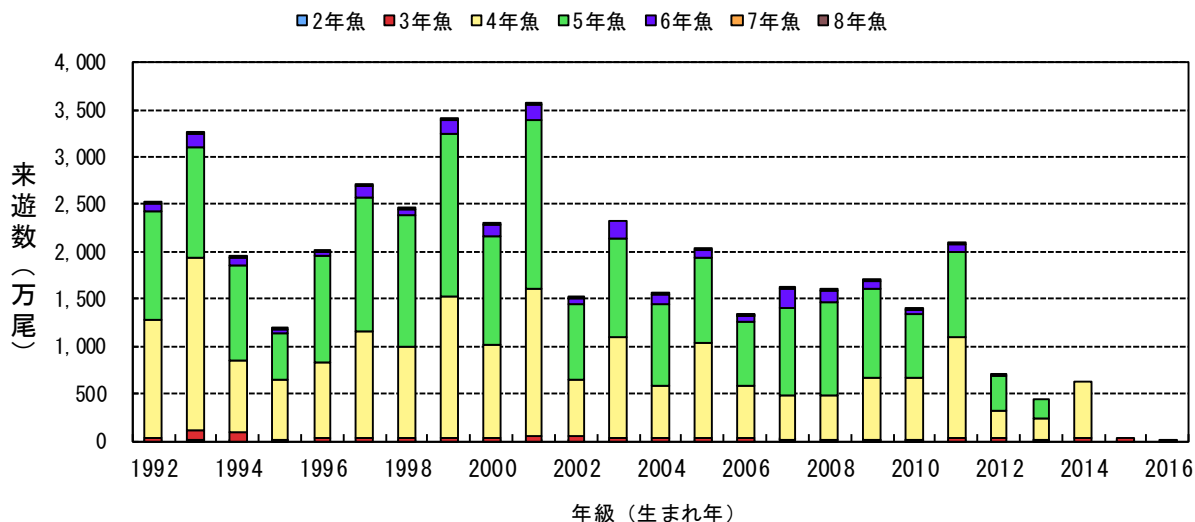


図2. 9月末時点のサケ年級群（生まれ年）別来遊数（北海道）.

地域別にみると、太平洋側（根室～えりも以西海区）では、4年魚が全体の80%を占め、5年魚の割合は14%にとどまっています。4年魚の来遊数は前年同期の396%、1994年以降の平均の51%と前年を上回っていますが、5年魚は前年同期の50%、1994年以降の平均の8%と1994年以降で一番少なく、5年魚の少なさが顕著です（図3）。

日本海側（オホーツク海区及び日本海区）では、4年魚が全体の66%を占め、5年魚の割合は29%になっています。4年魚は前年同期の199%、1994年以降の平均の84%と前年を上回っていますが、5年魚は前年同期の56%、1994年以降の平均の30%と、1994年以降で一番少なくなっています（図4）。

なお、北海道のサケの年齢組成は来遊時期の初めの頃には高齢魚（5年魚）の割合が高く、シーズンが進むにつれて3年魚や4年魚の割合が高くなる傾向があります。

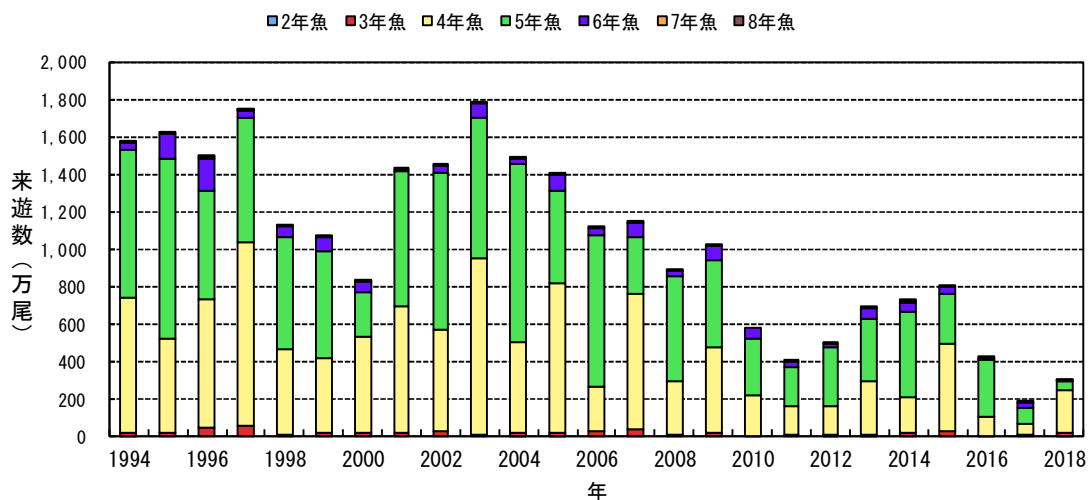


図3. 9月末時点のサケ年齢別来遊数（北海道太平洋）.

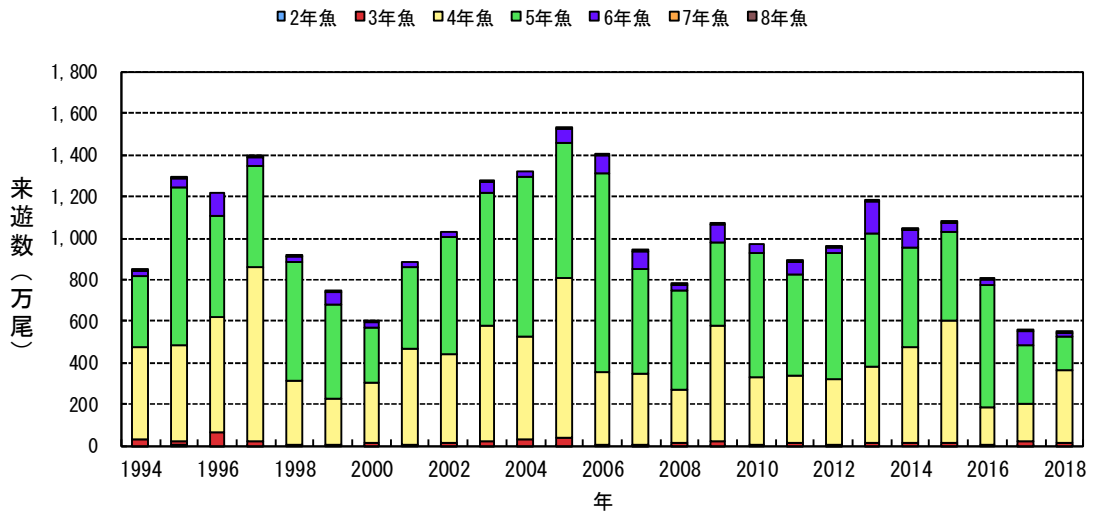


図4. 9月末時点のサケ年齢別来遊数（北海道日本海）.

・サケの体サイズ

北海道における9月30日現在のサケ1尾当たりの平均重量（サケ漁獲数と漁獲重量から算出）は3.03kgであり、前年同期（3.59 kg）の84%と大幅に減少し、1989年以降で最も小さくなっています（図5）。

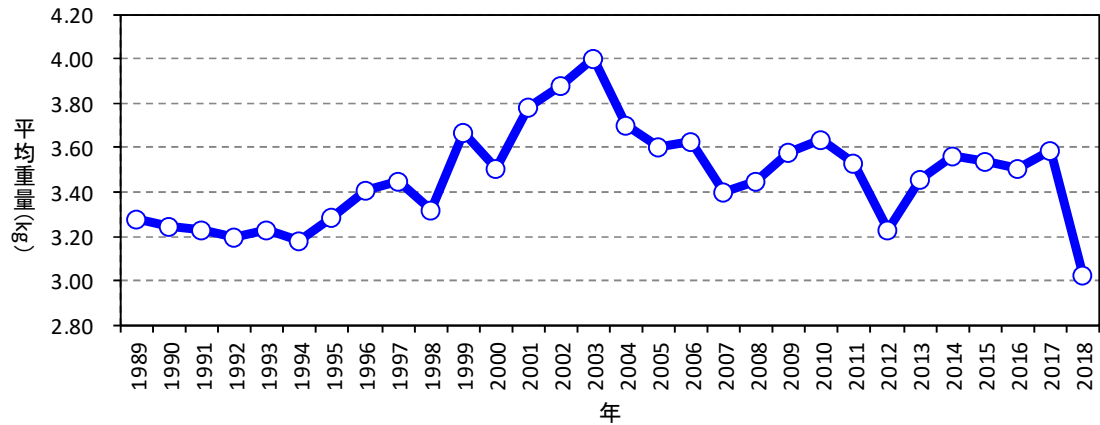


図5. 9月末時点のサケ平均重量（北海道）.